令和５年度第１回　総合教育会議

令 和 ５ 年 ７ 月 ４ 日 （ 火 ）
午 後 ２ 時 か ら ４ 時
県庁別館８階第一会議室A、B、C、D

次　　第

１　開会

（１）知事挨拶

（２）教育長挨拶

２　議事

協議事項に関する意見交換
・資料説明　［資料１、資料２、別冊資料］
・実践委員会の意見の報告　［資料３］
・意見交換
グローカル人材の育成
論点１　ローカルの多様性を尊重しながらグローバル社会に貢献する人材の育成方策
論点２　外国にルーツを持つ県民や児童生徒の個々の実態に応じた教育の充実方策

３　閉会

＜配布資料＞
〇資料１　「グローカル人材の育成」に関する論点
〇資料２　「グローカル人材の育成」に係る主な取組
〇資料３　「グローカル人材の育成」に関する実践委員会の意見
〇別冊資料　令和５年度第１回総合教育会議参考資料

資料１

「グローカル人材の育成」に関する論点

＜現状と課題＞

〇グローバル化の進展や科学技術の発展は、時間と場所を越えた交流を可能とするなど、社会の在り方にも変化をもたらしており、その変化は加速していくと予想される。

・地域が直接世界とつながる時代の中、「世界の中の静岡県」というグローバルな視点を持ち、国際社会や地域社会に貢献できる人材が求められている。

・新型コロナウイルス感染症の影響から滞っていた国際交流は徐々に再開されている。また、「東アジア文化都市」の開催都市に選定されたことから、こうした機会を捉え、国際交流を促進する施策に更に取り組む必要がある。

・次代を担う子どもたちが、日本の歴史や伝統文化、風土、生まれ育った地域への理解を深め、多様な背景を持つ他者との関係を構築するためのコミュニケーション能力や協調性、新しい価値を創造する力を身に付けることが大切である。

未来を切り拓く Dream 授業での ALT との交流

〇グローバル化の進展等に伴い、県内において外国にルーツを持つ県民や児童生徒が増加傾向にある。

・個々の外国人県民・外国人児童生徒等の実態に応じた日本語指導や教育の充実とともに、外国人県民が地域で安心・快適に暮らせる多文化共生社会の実現が求められている。

・外国人県民等が社会で自立し活躍できるようにするため、キャリア教育や就労支援の充実が求められている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	対2012年比
外国人総数(人)	77,353	75,467	75,115	76,081	79,836	85,998	92,459	100,148	99,629	97,338	1.26
外国人児童生徒数(人)	4,685	4,655	4,714	4,871	5,098	5,435	5,888	6,246	6,582	6,819	1.46
県総人口に対する割合(%)	2.07	2.02	2.02	2.06	2.17	2.34	2.53	2.75	2.74	2.68	1.29

外国人総数(人)　外国人児童生徒数(人)　県総人口に対する割合(%)

論点１　ローカルの多様性を尊重しながらグローバル社会に貢献する人材の育成方策

県民の国際交流や外国人留学生の受入れを推進するとともに、外国語によるコミュニケーション能力の向上を図り、日本の伝統文化を理解した上で国際的な感覚や視点を持って国内外に貢献できる人材を育成するため、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

・国際交流の再開を踏まえた海外留学や外国人留学生受入の充実
・外国の歴史・文化等を理解し受け入れる姿勢、他者への共感や思いやりを持つ態度の育成
・国際社会において自らの意思を的確に表現し、コミュニケーションをとる能力の育成
・日本の歴史・伝統文化・風土を知り、生まれ育った地域の良さを認識できる学習機会の充実
・武道や茶道等の日本の伝統文化、日本の豊富な自然環境に触れ、日本人の伝統的な価値観や暮らし方の重要性を再認識する機会の確保

論点２　外国にルーツを持つ県民や児童生徒の個々の実態に応じた教育の充実方策

外国にルーツを持つ児童生徒が、必要な日本語能力や学力等を身に付けられる教育機会を確保するとともに、将来を見通した進路選択を行い社会で自立していける環境を整備するため、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

・外国にルーツを持つ児童生徒の就学促進及び学びの継続のための支援体制の充実
・児童生徒が個々の能力や意欲に応じて将来を見通した進路選択等を行えるような支援の充実
・外国にルーツを持つ県民が地域で安心・快適に暮らせる環境の整備
・外国にルーツを持つ県民が生き生きと働くことのできる就労環境の整備

資料２

「グローカル人材の育成」に係る主な取組

１　ローカルの多様性を尊重しながらグローバル社会に貢献する人材の育成方策

《海外留学・留学生支援》

○グローバル人材育成関連事業（教育政策課）参考資料Ｐ１

・国内外で活躍できるグローバル人材の育成を社会総がかりで支援するため、県拠出金及び寄附金により「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、高校生の海外留学や海外インターンシップ、教職員の海外研修等を実施している。

○青少年の国際交流推進事業（教育政策課）参考資料Ｐ４

・富士山静岡空港の渡航先の国や地域（中国、モンゴル等）と将来の交流を担う人材等を通じて、友好的互恵・互助関係を基本とする地域間交流を進める。令和５年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、オンラインとオフラインを組み合わせたハイブリッド型の取組を推進する。

○学生を海外へ送り出す取組（大学課）参考資料Ｐ６

・日本人学生の海外留学支援の推進により、世界に貢献するグローバル人材の育成と、高等教育機関の国際化や海外高等教育機関との交流を促進する。

《外国の文化等の理解・コミュニケーション能力等の育成》

○児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業（義務教育課）参考資料Ｐ13

・小・中・高等学校の各段階で研修協力校を設定し、小・中・高等学校の連携について研究を進めるとともに、児童生徒の発信力強化に向けた教員の英語指導力向上を図る。

○静岡県立高等学校における国際バカロレア教育の導入推進（高校教育課）参考資料Ｐ16

・「静岡県立高等学校における国際バカロレア教育の導入基本計画」を踏まえ、国際バカロレア（ＩＢ）機構による認定に向け申請する学校を、静岡県立ふじのくに国際高等学校（令和６年度開校予定）とし、認定に向けた準備を行う。

○演劇専門教育の導入（高校教育課）参考資料Ｐ18

・「有徳の人」の育成に向けた特色ある学びの一つとして、生徒の個性を尊重し豊かな感性を養う教育を推進するため、清水南高校の芸術科に演劇専攻を設置する。

《郷土の歴史・文化等の理解》

○地域学の推進（教育政策課）参考資料Ｐ32

・小中高それぞれの段階で「総合的な学習（探究）の時間」等において、地域学習や地域活性化・地域づくりを図る学習等に取り組んでいる。特に、県立高校については、平成 30 年度に指定校研究の成果を全校に共有し、現在では多くの学校に取組が拡がっている。今年度は、「東アジア文化都市 2023 静岡県」を契機として、県立高校における地域学の取組を推進するとともに、その成果を本県の魅力ある地域文化として取りまとめ、世界・県内外に発信する。

○つなげる茶育推進事業（健康体育課）参考資料Ｐ39

・静岡茶の愛飲及び食育に関する取組に地域差があることから、模擬授業形式による具体的な取組を紹介することで、静岡茶愛飲条例を周知し、各校における実践及び静岡茶の食育の推進及び定着を図る。また、日本茶アドバイザーの資格を取得した栄養教諭等の、地域におけるお茶に関する食育推進リーダーとしての取組を促す。

《日本の伝統・文化の理解》

○実技指導者派遣事業（武道）（健康体育課）参考資料Ｐ42

・中学校武道必修化を踏まえ、武道の専門的な技術及び知識を有する地域の指導者等を中学校へ派遣し、武道等の指導の充実を図る。

２　外国にルーツを持つ県民や児童生徒の個々の実態に応じた教育の充実方策

《外国にルーツを持つ児童生徒の就学促進や学びの継続》

○外国人児童生徒トータルサポート事業（義務教育課）参考資料Ｐ48

・小・中学校及び義務教育学校並びに特別支援学校小学部・中学部に在籍する児童生徒を対象に、指導対象の児童生徒の母語及び日本語が堪能な外国人児童生徒相談員等を任用し、外国人児童生徒の適応指導、指導担当者等への助言、援助等を行う。

○地域日本語教育体制構築事業（多文化共生課）参考資料Ｐ50

・文化庁の「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、日本語能力が十分でない外国人県民（対象は 16 歳以上）が、生活に必要な日本語能力を習得する体制を構築するため、令和２年２月「静岡県地域日本語教育推進方針」を策定した。令和２年度以降、文化庁事業を活用し、同方針に基づく所要の事業を展開している。

○県立ふじのくに中学校（夜間中学）の概要（義務教育課）参考資料Ｐ51

・義務教育を修了できなかった人や、諸事情により中学校で十分に学べなかった人のための学校として、令和５年４月に、静岡県立ふじのくに中学校が開校した。磐田市の本校に９人、三島市の三島教室に５人が入学した。

《進路選択等への支援》

○外国人生徒支援（高校教育課）参考資料Ｐ56

・日本語支援を必要とする外国人生徒、保護者への対応は難しく、言葉の行き違いから問題が大きくなる場合もある。公立高等学校に在籍する外国人生徒の教育に対応するため、外部支援員を活用し、外国人生徒の適応指導、指導担当者等への助言等をする。

○外国人生徒みらいサポート事業（高校教育課）参考資料Ｐ60

・キャリアコンサルティング技能士及び日本語コーディネーターを支援対象校に巡回派遣し、生徒個々の状況を踏まえた個別支援プランを作成する。また、日本語能力に課題のある外国人生徒に対して、企業等が採用時に求める日本語能力の習得を目的とした日本語学習講座を実施する。

《外国にルーツを持つ県民の地域コミュニティへの参画・就労支援》

○世界の文化と暮らし出前教室（多文化共生課）参考資料Ｐ63

・次代を担う子どもたちをはじめ、県民の多文化共生に対する理解を推進するため、本県が雇用する国際交流員（フィリピン他）及び地域外交課の地域外交専門官（韓国他）が、県内小・中・高校、公民館等へ出張し、母国の文化や暮らしを紹介する。

○外国にルーツを持つ子どもの活躍支援に向けた取組（多文化共生課）参考資料Ｐ64

・外国にルーツを持つ子どもたちの活躍支援の充実を図るため、静岡文化芸術大学多文化・多言語教育研究センターと連携し、課題把握のための実態調査を実施する。また、県内で活躍している外国人の若者が、小中学校でその体験等を語る多文化共生講座を開催する。

資料３

「グローカル人材の育成」に関する実践委員会の意見

１　ローカルの多様性を尊重しながらグローバル社会に貢献する人材の育成方策

＜グローバリズム・ローカリズム＞

○グローバリズムが進むと画一性も進み、地域の特色がなくなる。文化や習慣、歴史といったものに現れる地域の特色を大事にすべきである。

○Think Globally, Act Locally が基本である。学校で、外国にルーツのある生徒と共に地元の企業と商品開発する等、地域で一緒に活動し、その様子を発信することがグローカル化の中で役立つ。このような取組がいろいろなところで行われ横展開されれば、グローカリズムも具体的に認識されるようになっていくのではないか。

＜海外留学・留学生支援＞

○公立高校各校に１人ずつ留学生を受け入れることができれば、生徒も変わり学校全体が変わる。その経験から世界に出ていこうと考える生徒も生まれるだろう。

○伊豆地域の子どもたちが通いやすい学び舎を提供し続けることが県の役目ではあるが、さらに、海外からの留学生に受け入れられるような学校づくりを考えなければいけないのではないか。子どもたちに伊豆半島の魅力の発信者になってもらい、外国の方々に伊豆の良さを知ってもらう。芸術や文学など感性を磨くことのできる土地柄を活かすことが必要。

○公立高校での留学生の受け入れや海外留学については、各学校がもっと自主性を持ち考えていくべきではないか。県教委がすべて決めるのではなく、学校にもっと自主性を持たせた方が良い。

○もし日本人が海外に出ることが減っているとしたら、それは家庭、学校、社会がそういったチャンスを子どもに与えきれていないからだろう。

○子どもが海外との交流を求めるかどうかは、身近にいる親や教員の影響が大きい。親の感覚は子どもの教育にとって非常に重要である。

○今は大人の自信のなさが子どもに反映されてしまっている。昔は、留学して新しい人や新しい物事に触れたいと思う意欲のほうが大きかった。今の学生は損か得かという考えが先に出てくるが、それは大人の考えが反映された結果である。

＜外国の文化等への理解・コミュニケーション能力等の育成＞

○海外では、子どもたちが生活のために布を織って空港等で販売している国もあり、観光客はその子たちの置かれた背景を考えながら購入する。こうしたアイテムを介して、コミュニケーションやつながりができる。

○海外に行くと必ずふるさとについて聞かれる。高校生にアイデアを出してもらうなどして、静岡県を紹介するカードゲームやパズルなどのツールを作り、海外に留学する学生に持たせると、コミュニケーションのきっかけにもなるのではないか。

○藤井聡太君の活躍で将棋の人気が上がったように、どの分野でも有名な人が出れば、その分野は一気に裾野が広がる。自分と違うレベルの人が身近にいることは、周囲に大きな影響を与える。大人がそういう社会を作ることが大事である。

○日本の子どもは内向き思考だといわれるが、それは大人がそう仕向けているからである。あれはだめこれはだめ、ではなく、自分としてやる気があるかどうかを問うべきである。やらせてあげる環境を大人が作ってあげることがとても大事だと思う。

○今の日本に求められるのは、同一性やはっきりと言わないことではなく、ちゃんと自分の意思を表示することである。

○テレビ番組で見た小・中学生は大人の研究者顔負けの知識や表現力だった。自信を持つことで、非常に大きな力が身に付くと感じた。若い頃から何か１つでも自分の自身になる軸を作ることが大事である。

＜日本や郷土の伝統・文化の理解＞

○子どもたちが静岡の伝統文化を理解し、自分の視点で地域をプレゼンする場を提供できると良い。

○日本において、武道の精神性が失われているのではないか。一般的なスポーツは、まず体力、そこから技術を磨いて心に達するが、あえて逆に心技体といった武道の奥深さを今一度学び直すべきである。

○富士山世界遺産は、縄文時代の平和的な世界観を数千年同じ形で体現している、とても面白い文化である。富士山のある静岡県からその和の文化を言語化して発信出来たら良い。

○日本にしかないものを見つけてそれにしがみつこうと考えると、日本は発展しない。日本の良いところは実は海外にもあるということを見つけていく方が、日本は伸びていく。「日本は素晴らしい」という風潮の中で、実際は表面的な事しか見ていないのではないか。人間の普遍性を発見し、いかに文化が違っていても人間同士わかり合えるということが、平和の構築には大切である。

○静岡県の教育の基本方針は、文武芸の三道鼎立である。日本の伝統である武道についても、今後議論を深めていきたい。

○海外から日本の平和の文化を求めて来日する人は年々広がっていると聞く。一方で、日本では日本文化に興味を持つ高校生は少なく、留学生の中には、日本の学校でその点を思うように学べなかったと感じている人もいる。もっと生徒に日本文化を学んでもらう機会を増やすことが必要ではないか。

○日本の伝統文化を理解しようとしても、日本の中にいたのでは魅力はわからない。海外に出てみることが大事である。

○日本の伝統文化を理解した上で国際感覚を持つということはなかなか難しい。高校生くらいの年代は、グローカルという発想はなく、むしろ自分が今接していることと異なることに興味をもつはずである。ここで日本文化の理解を優先してしまうと、薄っぺらな考えになってしまうだろう。そこで、身近に自分とはバックグラウンドの違う生徒がいれば、異なる文化に興味を持つことができ、その先に日本独自の文化に気付くことができるだろう。日本独自のものとは、結局、日本語と日本の気候風土だと思う。

２　外国にルーツを持つ県民や児童生徒の個々の実態に応じた教育の充実方策

＜外国にルーツを持つ児童生徒の就学・進路選択等への支援＞

○日本の教員には、外国にルーツを持つ子どもを上手に授業の中に組み込んでほしい。また、子ども達がお互いに自分のプライドを称えることができれば、お互いにプラスになっていく。

○外国人学校に通っている人にとって、日本語はすべての分野で壁になってしまっている。その中で、スポーツや芸術はポテンシャルが高い分野である。これらの分野で年に１回でも良いから専門の指導者の指導を受ける機会があるとよい。外の世界への流れが出てくるのではないか。

○自分の娘が通っていた高校には多くの国から留学生がいた。入学式や卒業式では、出身国の国旗を掲揚するようにお願いした。留学生のアイデンティティーを尊重することが大事である。

○外国にルーツを持つ子どもたちが進路を決めて豊かな生活を送る道筋をどうやって作っていくかが重要である。

＜外国にルーツを持つ県民、子どもの地域コミュニティへの参画・就労支援＞

○県内に複数あるブラジル人学校について、外国にルーツを持つ子どもの活躍支援やキャリア支援として、国際交流協会と一緒にブラジル人学校の職場体験というものを独自に実施したことがあるが、その時にブラジル人学校と公立学校の分断を感じた。もっとブラジル人学校と公立学校が交流できれば、互いの文化理解に繋がる。

○日本の学校に通っている外国人の約４割が定時制に通っている。こうした生徒たちに、社会への出て行き方、就職支援等必要なサポートをしっかりしていく必要がある。

○グローバル化といえば留学が必要と思ってしまうが、日本にいても外国にルーツを持つ人が身近にいれば、様々な貴重な体験ができる。そのためにも、静岡にいながら、様々な留学生とつながれる場があると良い。

○学校に必ず留学生がいるという環境で英語を勉強することはすごく良いことである。留学生とコミュニケーションを取りたいと考える生徒が増えてくれば、受入準備も生徒自身ができるようになり、グローカル化の良いスタートになる。

○日本人が英語の勉強するに当たって、コミュニケーション能力が大事である。英語の文法をいかに正確に表現するかも大事かもしれないが、それよりもいかに中身のある事を伝えるかがもっと大事である。伝える内容がなければ相手には伝わらない。

○日本になかなか溶け込めていない外国にルーツを持つ人の情報を把握できていないのが現状ではないか。詳細に全ての情報を把握する必要はないと考えるが、地域全体で共有していくことが問題解決につながっていくのではないか。

＜その他＞

○日本語、読書の大切さについても、今後取り上げてみたい。

○静岡の自然や文化、教育について、子どもたちの理解が深まれば、その良さを海外に伝えていってくれるだろう。そうすると、静岡県の魅力が加速的に高まるだろう。